

西野原遺跡Ⅱ・Ⅲ

(平成14・16年度 袋井市上石野土地区画
整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

2005. 2

静岡県袋井市教育委員会
袋井市上石野土地区画整理組合

西野原遺跡Ⅱ・Ⅲ

(平成14・16年度 袋井市上石野土地区画)
整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005. 2

静岡県袋井市教育委員会
袋井市上石野土地区画整理組合



上石野地区採集のミニチュア土器（現場事務所にて・山本 浩氏提供）



上石野地区採集の土器（現場事務所にて・窪野勝久氏提供）

例 言

1. 本報告書は平成14(2002)年10月1日～平成15(2003)年3月25日(第2次調査)と、平成16(2004)年4月1日～平成17(2005)年3月25日(第3次調査)の期間に、袋井市愛野地区で実施された西野原(にしのはら)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は袋井市上石野土地地区画整理事業に伴う開発のうち、道路(車道)の建設予定地部分の発掘調査である。なお、本工事計画のうち、道路歩道部分・安全地帯・緑地帯については発掘調査は実施されていない。
3. 発掘調査は静岡県教育委員会文化課の指導を受けて実施した。
4. 今回の発掘調査・報告書執筆は永井義博(袋井市教育委員会)が担当した。
5. 西野原遺跡における袋井市教育委員会の試掘・発掘調査の履歴は次のとおりである。この他にも所在調査や立会調査も随時行われている。

調査の内容	調査年度	発掘調査の原因	調査担当者
試掘調査	平成6年度 (1994)	小笠山運動公園整備に係わる周辺河川改修事業 (静岡県袋井土木事務所)	吉岡伸夫 (袋井市教委)
詳細試掘調査	平成9年度 (1997)	袋井市上石野土地地区画整理事業に伴う試掘調査 (袋井市建設経済部区画整理課)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅰ次調査	平成13年度 (2001)	袋井市上石野土地地区画整理事業に伴う発掘調査 (袋井市上石野土地地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅱ次調査	平成14年度 (2002)	袋井市上石野土地地区画整理事業に伴う発掘調査 (袋井市上石野土地地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅲ次調査	平成16年度 (2004)	袋井市上石野土地地区画整理事業に伴う発掘調査 (袋井市上石野土地地区画整理組合)	永井義博 (袋井市教委)

6. 西野原遺跡の袋井市教育委員会遺跡略号は「TNH」である。
7. 現地の発掘調査にあたっては上石野土地地区画整理組合の加藤昭喜理事長にたいへんお世話になりました。
ここに記して感謝いたします。
8. 区画整理課の皆さんには、区画整理事業と埋蔵文化財調査の円滑な調整について、企画段階から発掘調査の終了まで多大なご理解と協力を得ました。たいへんありがとうございました。
9. 袋井市教育委員会の平成16年度の発掘調査体制は次のとおりである。(敬称略)
 教 育 長 戸塚 雅之 教育次長 山田 英二 生涯学習課長 堀川 勝
 課長補佐 秋田 勝美 主任主査 永井 義博 主 査 松井 一明
 主任学芸員 白澤 崇 経理事務 鈴木寿美子
 (発掘参加者) 兼岡 公子 兼岡 進 鈴木 義彦 萩田 権治 山本 隆二
 山下 悦子 船越スミ子
10. 本発掘調査は、静岡県教育委員会教育長より袋井市上石野土地地区画整理組合理事長あての指示によるものである。文書番号は「土木工事等のための発掘調査に係る指示について(通知)」(教文第3-112号・平成13年7月13日付け)である。
11. 平成14・16年度 西野原遺跡発掘調査の資料は袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	2
第3章	調査の方法	3
第4章	地理的・歴史的環境	3
第5章	遺 構	4
第6章	遺 物	4
第7章	まとめにかえて	5
	報告書抄録	

挿 図 目 次

- | | | |
|------|---------------------------------|------------|
| 第1図 | 西野原遺跡位置図 | (1／50,000) |
| 第2図 | 西野原遺跡の範囲 | (1／2,500) |
| 第3図 | 西野原遺跡発掘調査地点 | (1／2,500) |
| 第4図 | 西野原遺跡調査区全体図 | |
| 第5図 | 第1区 実測図 (平成13年発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第6図 | 第2区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第7図 | 第3区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第8図 | 第4区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第9図 | 第5区 実測図・その1 (平成14年・発掘調査・本書収録) | |
| 第10図 | 第5区 実測図・その2 (平成14年・発掘調査・本書収録) | |
| 第11図 | 第6区 実測図 (平成14年・発掘調査・本書収録) | |
| 第12図 | 第7区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第13図 | 第8区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第14図 | 第9区 実測図 (平成13年・発掘調査・「西野原遺跡Ⅰ」収録) | |
| 第15図 | 第10区 実測図 (平成16年・発掘調査・本書収録) | |

写真図版目次

巻頭カラー図版

- (1) 上石野地区採集のミニチュア土器（現場事務所にて・山本 浩氏提供）
- (2) 上石野地区採集の土器（現場事務所にて・窪野勝久氏提供）

図版 1

- (1) 第8区 調査前（南東より）
- (2) 第8区 重機による表土除去作業

図版 2

- (1) 第8区 発掘調査中
- (2) 第8区 発掘作業中

図版 3

- (1) 第8区 完了写真（東より）
- (2) 第8区 完了写真（西より）

図版 4

- (1) 第8区 S E 5完了写真（北より）
- (2) 第8区 S E 5炉跡（西より）

図版 5

- (1) 第8区 発掘作業中
- (2) 第8区 S E 3完了写真（北より）

図版 6

- (1) 第9区 調査前（南西より）
- (2) 第9区 発掘作業中（南より）

図版 7

- (1) 第9区 遺構発掘中（南より）
- (2) 第9区 出土土器の状況

図版 8

- (1) 第9区 完了写真 (南より)
- (2) 第9区 遺物出土状況

図版 9

- (1) 第9区 土錘出土状況
- (2) 第9区 土壙より出土した土器

図版10

- (1) 第10区 重機による表土の除去
- (2) 第10区 発掘作業中

図版11

- (1) 第10区 発掘作業の状況
- (2) 第10区 完了写真 (東より)

図版12

- (1) 第10区 空中写真撮影
- (2) 第10区 測量作業中

第1章 調査に至る経過

袋井市愛野（上石野）地区は、小笠山より流れ出た土砂によって形成された扇状地を思わせる地形になっている。この上石野地区は、集落の点在する平坦地の西側を「西野原」、東側を「東野原」と呼んでいるが、今回、発掘調査した西野原遺跡は文字どおり西野原の地下1mの堆積土の下に埋まっている。この西野原遺跡は「袋井市上石野土地区画整理事業」に伴って平成13（2001）年度にはじめての発掘調査が実施されている。この発掘調査に至るまでの経緯は次のとおりである。

西野原遺跡が周知の埋蔵文化財として登録されたのは最近のことである。今までの関連書籍の中でも、昭和54年に発行された『静岡県遺跡地図・静岡県地名表』（発行・静岡県教育委員会）や、昭和60年に発行された『袋井市遺跡地図・袋井市地名表』（発行・袋井市教育委員会）では上石野の集落内で埋蔵文化財は確認されておらず、西野原遺跡はまだ記載されていない。昭和63年、愛野地区に進出を計画していたサンコー株式会社の工場造成工事に伴う若作遺跡・若作古墳群の発掘が上石野で実施された。そこで、周辺踏査や聞き取り調査によって西野原遺跡の所在が確認されたと思われ、その成果を受けて平成元年に改訂された『静岡県文化財地図・静岡県文化財地名表Ⅱ』（発行・静岡県教育委員会）にはじめて西野原遺跡として記載されている。平成6年に小笠山運動公園建設が計画され袋井土木事務所の依頼で9月19日～9月22日の間で、愛野地内の埋蔵文化財試掘調査が行われた。次いで、J R愛野駅の建設に関連する土地区画整理事業が計画され、この中で区画整理課、都市整備課、教育委員会の3者で平成8年12月13日に埋蔵文化財の取り扱いについて協議が持たれている。この席で、教育委員会より祢宜弥土地区画整備事業と上石野土地区画整備事業に関連して円滑な工事を行うには、精密な所在調査・試掘調査を実施し遺跡の範囲を確定する必要性が唱えられた。そこで、平成9年4月8日～11日にかけて、祢宜弥・上石野地区の試掘調査が実施された。この結果、いままですの文化財調査員が推定で遺跡の範囲としていた遺跡地図より正確に発掘調査を必要とする範囲を確認することができた。ちょうどこの頃、全国的に発掘調査の取り扱い見直しが話題となっており、静岡県教育委員会に問い合わせたところ、平成10年6月29日付けで袋井市愛野地内の遺跡の発掘調査について次のような回答があった。

①道路用地のうち歩道を除く部分は従来どおり発掘調査が必要であるとのこと。

②道路用地のうち歩道部分は慎重工事の取り扱いとすること。

③商業地・住宅地については、店舗・住宅等の建設計画が具体化したところで基準に沿って対応すること。

④ただし、工事等により遺構面が破壊される恐れのある場合はすべてが発掘調査対象地である。

これによって、祢宜弥遺跡に続き西野原遺跡も新基準を適用して、今までの袋井市内で実施された春岡遺跡等の区画整理事業の発掘とは異なり、計画道路の車道部分が主な調査対象となった。このため、平成13年6月29日付けで袋井市上石野土地区画整理組合理事長名で静岡県教育委員会教育長あて「埋蔵文化財発掘の届出書」（文化財保護法第57条の2）が提出された。これを受けて平成13年7月13日付け教文3-112号「土木工事のための発掘調査に係わる指示について（通知）」にて静岡県教育委員会教育長より袋井市上石野土地区画整理組合理事長あてに図面上で「発掘調査」と「工事立ち会い」がそれぞれ指示された。この指示書は袋井市教育委員会を經由して上石野土地区画整理組合に通知されている。

第2章 調査の経過

(平成13年度の工程)

平成13年9月1日～平成14年3月25日 詳細は「西野原遺跡Ⅰ」を参照されたい。

(平成14年度の工程)

平成14年10月1日 平成14年度 西野原遺跡発掘調査委託契約の締結。
11月6日～11日 重機による表土の掘削・除去作業。
11月12日～15日 作業員による包含層の除去と遺構確認。炉跡・土器出土。
11月18日～22日 遺構実測・土器の取り上げ。
11月25日～29日 出土遺物の取り上げ。実測の補足作業。
12月2日～9日 撤収作業。残務整理。
12月10日～ 出土品資料整理作業。
平成15年3月25日 平成14年度 西野原遺跡発掘調査業務委託の完了。

(平成16年度の工程)

平成16年4月1日 平成16年度 西野原遺跡発掘調査委託契約の締結。
6月4日～ 重機による表土の掘削・除去作業。
6月7日～ 現場事務所、仮設トイレ等の設置作業。
発掘作業は雨天のため中止。
6月8日～ 作業員による包含層の除去と遺構確認作業。柱穴跡の発掘作業。
6月21日 台風により中止。
6月25日 遺構の発掘が終了。
6月28日 写真用の清掃作業。
6月29日 ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影・測量。
6月30日 会議のため現場休止。
7月1日～2日 現場での残務整理と撤収作業。
7月5日 出土品資料整理作業の開始。
平成17年1月11日 発掘調査報告書の原稿を印刷所に入稿。
2月20日 発掘調査報告書完成。
3月25日 平成16年度 西野原遺跡発掘調査業務委託の完了。

第3章 調査の方法

今回の発掘調査報告書には、平成14年度の第8区と第9区が、平成16年度の第10区が報告されている。それぞれの調査面積は、第8区(120㎡)・第9区(50㎡)・第10区(180㎡)であり、平成13年度に発掘調査した1,170㎡に合計すると西野原遺跡全体での発掘面積は総合計で1,520㎡となる。調査地周辺の地目は区画整理事業が進み現況は建物跡、畑地、道路であった。西野原遺跡の調査区は、発掘調査の新基準に準拠して道路部分を発掘したため、どうしても細長い調査区画となっている。上石野地区がいわゆる扇状地に位置するため、区画整理事業での工事は遺構確認面までに30cmの保護層が確保できるため、工事により遺構・遺物を破壊する恐れが少なく、なるべく遺跡を保存するために「遺跡の破壊される恐れのある部分」と「道路部分」のみが発掘対象となった。今回の発掘調査では、区画整理課と土地区画整理組合のご配慮により周辺に広い作業ヤードが確保されていたため、安全に作業を実施することができた。

遺跡の測量はラジコンヘリコプターによる空中写真測量を使用した。40分の1、100分の1の遺構実測図を作成するとともに鳥瞰写真の撮影も行った。その他調査方法の基本は第1次調査を踏襲した。写真撮影はラジコンヘリコプターからはブローニサイズ6×6を使用し、遺跡内のスナップ写真は35mm判にニコンF70を使用した。

第4章 地理的・歴史的環境

西野原遺跡の地理的・歴史的環境については「西野原遺跡Ⅰ」に詳細に記述されている。

ここでは、その中の昭和8年に故鈴木松太郎氏によって記録された『石野之栞』について改めて触れておきたい。これは、愛野地区の近世・近代の歴史と民間伝承についてまとめたもので、石野は昔は石野村、さらには石野郷とも呼ばれ鎌倉時代の文献に最初に姿を見せるようになった。石野乃栞の一説には「石野村ハ今ヨリ凡七百八年之前ニ出来タル村ニテ神社三ヶ所、寺四ヶ所アリタルモ、明治八年ノ改正ニテ神社仏閣ハ一村ニ一社一ヶ寺ヨリホカニ建置く事デキズト云事ニテ正覚寺、慈徳庵、菩提寺ノ三ヶ寺ツブシテ明香寺ノ一ヶ寺トナッタ。熊野権現神社、八幡宮、山之神神社之三社アリタルモ明治八年之改正ニテハ八幡宮一社氏神トシテ祭り置ケリ。…」とある。つまり本文の冒頭からわかるとおり、当時の石野村は袋井市内では古くからの郷であり、また大きな集落であったことが伺える。この「石野乃栞」については本書の後半で関連資料として紹介しているので参照願いたい。

小笠山は、隆起する以前は大井川の吐き出した河川堆積物により形成された地質であるが、砂礫層を基盤とするため、まとまった雨が降ると土砂崩れがおこり山頂近くから土石流となって古代・上石野の集落を押し流すことがあったと考えられる。

周辺の遺跡調査は、西野原遺跡の南側では県立小笠山総合運動公園(エコパ)の建設に伴い静岡県埋蔵文化財調査研究所により発掘調査された居村古墳群・居村遺跡・若作古墳群・上石野古墳群がある。東側には少し古いがサンコー株式会社の工場建設に伴う若作古墳群があった。西側はポーラ化成株式会社の造成時に弥生時代～古墳時代の遺物が採集された愛野向山Ⅰ遺跡があり、愛野駅北側では同じく区画整理事業に伴い発掘調査が実施された古墳時代～中世の祢宜弥遺跡が分布している。

第5章 遺 構

西野原遺跡の平成13・14・16年度の3年間の発掘調査で、第1区～第10区の調査区から検出された遺構には住居跡、掘立柱建物跡、溝跡、土壇跡、柱穴等がある。ただし検出された遺構は、土石流の下であるため地表面が削平されて確認面がはっきりしなかった。さらに、茶園部分では改植がなされ、住宅等の建物部分は基礎構造により地下の遺構に影響を与えていることが多かった。ここでは西野原遺跡の全体図から確認できる代表的な遺構のみを簡単に紹介していきたい。

・住居跡（SE）

確認された住居跡はSE1～SE16までの16軒である。西野原遺跡の住居跡は円形または隅丸方形のプランを持ち、住居跡の中央に炉跡を残している。この焼土から住居跡と確認される遺構が多い。発掘の調査区が道路幅しかなく住居跡の全体が確認できるものはなく、遺構の一部分しか調査されていない。

・溝跡（SD）

確認された溝跡はSD1～2である。SD1は第6区西側にあり中世の遺物を出土する排水のための小さな溝跡である。地形の等高線に沿って掘られている。確認が狭い範囲のため遺構の性格を把握することは難しい。SD2は第5区の東側より検出されており周囲の住居跡と重複する溝跡で古式土師器を出土している。遺構の形態から周溝墓のようにも思えるが確証はない。周辺にはいくつかの炉跡があり複数の住居跡と混在している。

・土壇跡（SX）

確認された土壇跡は第9区で検出されたSX1である。全体は楕円形の遺構のようであるが狭い調査区が災いして土壇の全景は不明である。南側の壁部分に熱を受けて焼土になった部分が見られるため当初は土器焼成遺構の可能性も検討していたが、現況では何の目的で使用されたか不明である。その他の土壇状の遺構もいくつかあるが、特別に出土遺物もなくその性格を追うことは難しい。

第6章 遺 物

出土遺物のほとんどは土石流内から出土している古墳時代の土師器である。つまり西野原遺跡に1mの厚さで堆積している土石流の下部は古代の集落を巻き込んできた、流れ込みの遺物包含層でもある。さて、第1～3次調査までの3回の発掘調査で出土している遺物は、縄文時代中期の石器破片1点（「西野原遺跡Ⅰ」を参照）、弥生土器破片、古式土師器破片、須恵器破片、陶器破片、磁器破片、土製品（土錘など）である。このうち、代表的なものを写真図版13～16で紹介する。土師器、須恵器ともほとんどが上流から強い力で流されてきた破片であり、残念ながら写真図版に耐えられるものはないのが現状である。住居跡等の遺構内の遺物も小片が多く、時期的にはS字口縁甕を含む古式土師器が主体で、土石流内の土師器はこれに中期のものが含まれてくる。また上層からは鎌倉時代等の中世の遺物も確認されている。

第7章 まとめにかえて

さて上石野の集落は、現在、区画整理事業により美しくなった街並みをエコパからJR愛野駅に広がる小扇状地の上に展開している。発掘調査は、その街並みの地下1 mに眠る古代の西野原遺跡を3年間かけて発掘してきた。しかし、発掘では古代の生活面よりさらに下層の基盤層まで深掘りすると、場所によってははるかに下層から新たなスクモ層を確認することができる。つまり発掘で検出された古墳時代初頭の生活面は、実は谷部の湿地帯に堆積した厚い山土の上で営まれていたことになり、弥生～古墳時代にかけて小笠山ではたびたび洪水に襲われていた可能性が示された。さらに弥生時代の洪水も、古墳時代の土石流も厚さ約1 mの大量の土砂を山麓から運んでおり、状況から見て古代のムラは瞬く間に全滅したと考えられる。土石流に混入している土器等の遺物の状況から、古墳時代の初頭～中期の集落跡は字西野原だけではなくさらに字東野原側にも所在することが予想できた。これはエコパ内での発掘調査とも関連を持ってくると思われる。エコパ入口にわずかに痕跡を残す大池跡（昔はもう少し大きな灌漑用のため池であったが）の成立要因も、法多山裏から流れ出た前記の土石流の一部により閉塞されたため谷口に土砂が堆積して、その奥の谷が自然のため池になったものであろう。

今回の遺跡調査が示した教訓は、小笠山北側はいまでも土砂崩れの起きやすい地質であり、どんなに雨量計算して整備された施設も大雨時にはエコパ周辺を中心に十分な注意が必要であることを示している。また、エコパの北側である上石野地区も区画整理事業により新しい町並みに生まれ変わった後も過去の災害の歴史は決して忘れてはいけな場所であり、同じに区画整理事業中の祢宜弥地区も過去の水害の歴史より十分な防災意識を持ち続けなければならない。

（参考文献・引用文献）

- 鈴木松太郎 1933 『石野之栗』 石野村之由来ほか
浅井喜作 1975 『豊沢小史 一古文書より見た宝野と菩提一』
浅井喜作 1977 『笠西小史 一近世文書より見た村々の姿一』
勸農報徳社 1980 『五軒平の歴史』
加藤芳朗 1985 「土橋遺跡をめぐる地形・地学的背景」 『土橋遺跡』 袋井市教育委員会
袋井市教育委員会 1987 『愛野向山A-2・3・4号』
袋井市教育委員会 1988 『愛野向山A-8号 愛野向山墳墓群 愛野向山IV遺跡』
袋井市教育委員会 1990 『若作遺跡 若作古墳群』
袋井高校郷土研究部 1997 『石野の民俗』 調査報告書
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997 『小笠山総合運動公園内遺跡群』
袋井市教育委員会 2001 『祢宜弥遺跡Ⅰ』
袋井市教育委員会 2002 『祢宜弥遺跡Ⅱ』
袋井市教育委員会 2002 『西野原遺跡Ⅰ』
袋井市教育委員会 2004 『愛野向山遺跡』

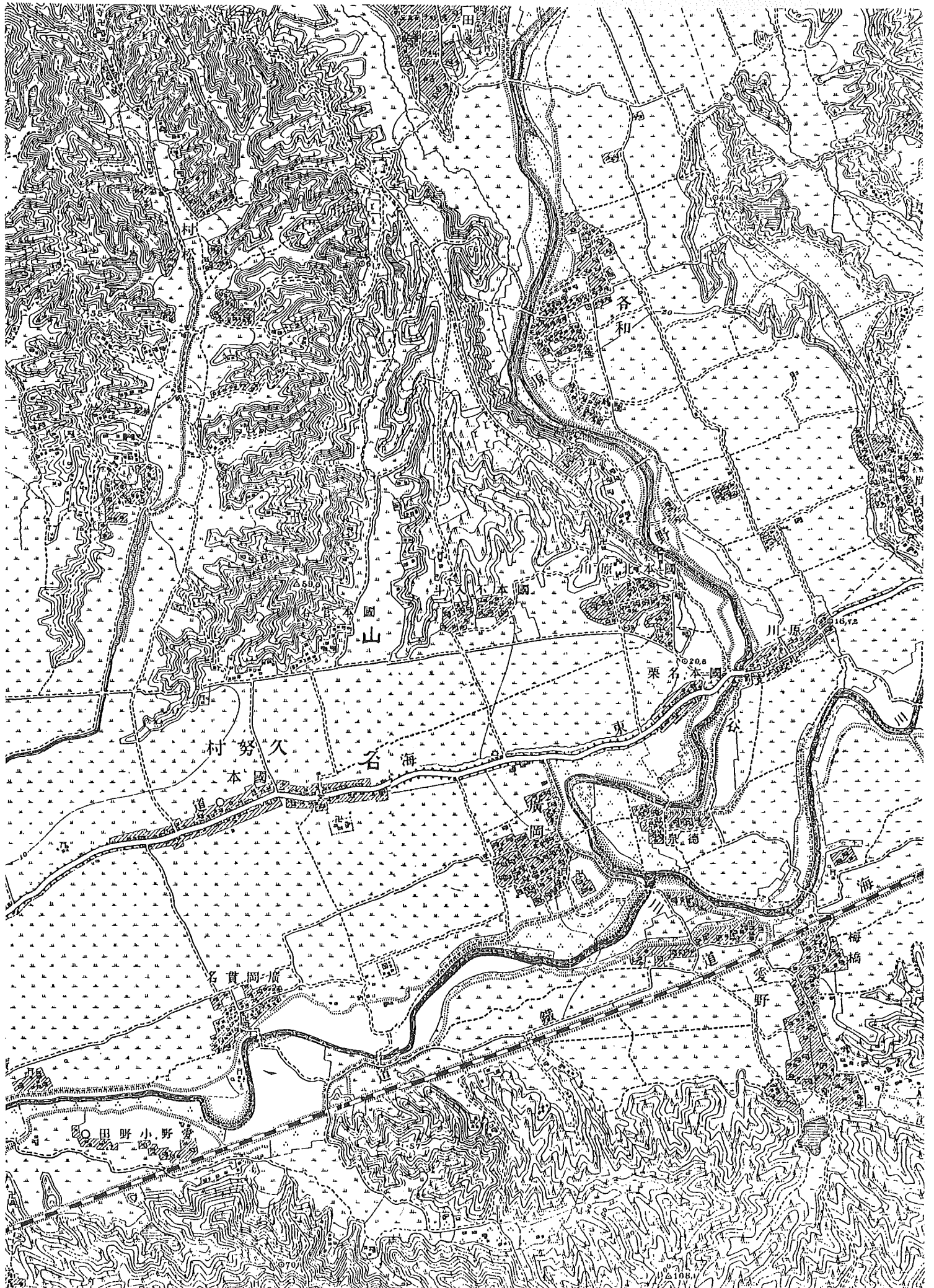
第7章 まとめにかえて

さて上石野の集落は、現在、区画整理事業により美しくなった街並みをエコパからJR愛野駅に広がる小扇状地の上に展開している。発掘調査は、その街並みの地下1mに眠る古代の西野原遺跡を3年間かけて発掘してきた。しかし、発掘では古代の生活面よりさらに下層の基盤層まで深掘りすると、場所によってははるかに下層から新たなスクモ層を確認することができる。つまり発掘で検出された古墳時代初頭の生活面は、実は谷部の湿地帯に堆積した厚い山土の上で営まれていたことになり、弥生～古墳時代にかけて小笠山ではたびたび洪水に襲われていた可能性が示された。さらに弥生時代の洪水も、古墳時代の土石流も厚さ約1mの大量の土砂を山麓から運んでおり、状況から見て古代のムラは瞬く間に全滅したと考えられる。土石流に混入している土器等の遺物の状況から、古墳時代の初頭～中期の集落跡は字西野原だけではなくさらに字東野原側にも所在することが予想できた。これはエコパ内での発掘調査とも関連を持ってくると思われる。エコパ入り口にわずかに痕跡を残す大池跡（昔はもう少し大きな灌漑用のため池であったが）の成立要因も、法多山裏から流れ出た前記の土石流の一部により閉塞されたため谷口に土砂が堆積して、その奥の谷が自然のため池になったものであろう。

今回の遺跡調査が示した教訓は、小笠山北側はいまでも土砂崩れの起きやすい地質であり、どんなに雨量計算して整備された施設も大雨時にはエコパ周辺を中心に十分な注意が必要であることを示している。また、エコパの北側である上石野地区も区画整理事業により新しい町並みに生まれ変わった後も過去の災害の歴史は決して忘れてはいけな場所であり、同じに区画整理事業中の祢宜弥地区も過去の水害の歴史より十分な防災意識を持ち続けなければならない。

（参考文献・引用文献）

- 鈴木松太郎 1933 『石野之栗』 石野村之由来ほか
浅井喜作 1975 『豊沢小史 一古文書より見た宝野と菩提一』
浅井喜作 1977 『笠西小史 一近世文書より見た村々の姿一』
勸農報徳社 1980 『五軒平の歴史』
加藤芳朗 1985 「土橋遺跡をめぐる地形・地学的背景」『土橋遺跡』 袋井市教育委員会
袋井市教育委員会 1987 『愛野向山A-2・3・4号』
袋井市教育委員会 1988 『愛野向山A-8号 愛野向山墳墓群 愛野向山IV遺跡』
袋井市教育委員会 1990 『若作遺跡 若作古墳群』
袋井高校郷土研究部 1997 『石野の民俗』 調査報告書
（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所 1997 『小笠山総合運動公園内遺跡群』
袋井市教育委員会 2001 『祢宜弥遺跡Ⅰ』
袋井市教育委員会 2002 『祢宜弥遺跡Ⅱ』
袋井市教育委員会 2002 『西野原遺跡Ⅰ』
袋井市教育委員会 2004 『愛野向山遺跡』



長者平之由来

長者平は菩提の西北にあたり、ここに長者ありて其の長者の家令に毎年米丸田面に大なる田ありて之毎年家令とし、一日に植付けたるに、ある年其の日に限り大雨にて植付け終りかねたるに、使いし者来たりて長者向かいて云い様、本年はとても植え終り出来かねるがどう云うものならんと聞くに長者曰く毎年家令なれば夜となりても植え付けよ。今我が少々日をのばしてやらんと金の扇をもつてお日様を上へ扇ぎ上げたり。それ故遂に植付けできたるもおしおり、これ日の罰にてその夜大雨降りて長者及び菩提村の人家及び寺までが流されたりとの伝説なり。

菩提寺の由来

菩提寺は豊沢の菩提にありたるが、長者平出来たる頃大洪水出て長者も寺も流され新池田面まで流れ出て、天気晴れ西の風出て寺の本尊西の風にてふきつけたるに、本尊に菩提より来るものと判明して、ここに寺を建立して其の名を菩提寺と名付けた。今日にいたるも菩提に寺なし。今の山崎治作方の屋敷之なり。

(注一) 本書は昭和八年に故鈴木松太郎氏によつて書かれたもので、鈴木義彦氏の承諾を得てここに復刻した。

(注二) 本書は原文に限りなく近く編集しているが、一部現代ではわかりにくい所のみ補正した。

(注三) 伝説は書かれた古文書によつて諸説ある。どの伝説も地域に伝わる大切な物語である。

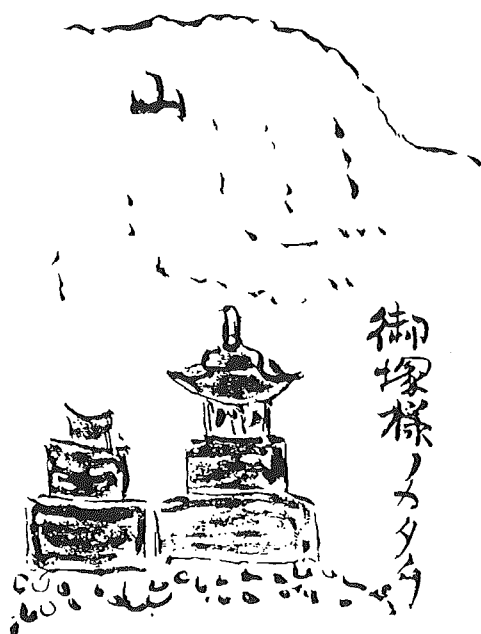
(注四) 本書は区画整理事業で大きく変貌しつつある愛野地区の「温故知新」に役立たせるため掲載した。

昔、權四郎稻荷



昔、
天白稻荷

昔、行人塚



御塚様ノカタ

權四郎稻荷之由来

此稻荷はもと石野の西の隅にて現今瓦屋より約二丁程（二百メートル）北なる沼野義平氏の持地なりたるが、河川改修のためその形失いたり。之寺宮の廃止と同時になくなりました。

行人塚之由来

行人塚は今の方丈屋敷の西山峠にありて、昔世の人の為に長く行をして此所に穴を作りその穴に入る時に我この穴にて終る人々よ我この鐘を打ち鳴らす。この鐘の絶えたれば死たると思え。人々難病にて困る者は我を信じよと云いて終りました。故に之を行人塚と稱す。

天白稻荷

天白稻荷は今の里前（下石野）。野あらし棒杭の東北一丁半（二五〇呎）の所にて尊き社あり。大松、大杉の森ありて此所に稻荷の御堂ありたるも昔の大洪水にて此所の人々皆流されたり。之を此所の氏神同様に祭りたりと聞く。此所の部落の取締まり山崎與平という人にて今において此所を与平前という。

御塚様の由来

この御塚様は昔よりの伝説によれば貫名之四郎重唯のお墓なりとも聞く。昔貫名山妙日寺は今廣岡の中之建にありたるも大洪水のために今の所となりたり。其の頃妙日寺と墓所とが水のために三つに切離されてこの川を三切り淵という。右の塚は旧正覺寺にありて人よく参りたれども今は貫名山妙日寺へ引き取られたり。

たるに塚の中心より剣と鏡と鈴の三品掘り出したり。古くよりこの塚に登ると足がまがると云う伝説ありて人々恐れていたり。

佛供田谷と神田谷

石野の東部に佛供田谷と神田谷とあり。佛供田とは観音様の御供米を作る田なり。之は火燈の松の北の谷を云う。神田谷とは権現様や八幡宮の御供米を作る田なり。これは佛供田より約五丁（五〇〇^坪）西北の所なり。

観音堂の由来

これは石野中程にて字清水川と云う所の西南の所を云う。ここはもと観音の御堂ありたる所とて、今の学校山のふもとにて地面一[〃]二尺（三〇[〃]六〇^{サシ}）掘れば五輪塔のカケラ沢山出る所あり。又、清水川とは今の土井通りなりと云う。法多山の観世音は此所より出た物とも聞く。明治十四[〃]五年頃までは毎夜火の玉出て稲の上をころがりたり。

方丈屋敷の由来

方丈屋敷は今より約四百年前に方丈の諸川甲斐守の領分にて此所に笹川之三家出来たり。氏神として白山大権現、天神社を祭りたり。其の後明治八年の改正にて白山権現は天神社へ合社したり。

富見堂薬師如来之由来

富見堂薬師如来はもと下石野の字薬師とて現今の沼野喜平治之茶畑にてやゝ高きところなり。此所にて北向きの御堂なるゆえに、東海道久津部を通るに諸大名ことごとく落馬したるゆえ、此薬師如来を東海道地並に下げよとの命にて之をネギヤの堂に引き下げたるも、明治八年の改正にて堂が廃止となり之を明香寺へ御預けとなり、此所明香寺に安置すること約四十二年なり。其後有志者ありて御堂を建立し之を字向山の明香山に建てたり。此所は廣く田面をながめ鉄道を下に見て富士山を見る事実に心持よく之を名付けて富見堂と云う。

富見堂薬師如来

富見堂の薬師如来は行基菩薩の作にて尊き像なり。そのご利益はデキモノ一切という。いかなるデキモノでも、うみ、はれものでもコブのごときものでもきつと直る尊き如来なり。

六部の谷由来

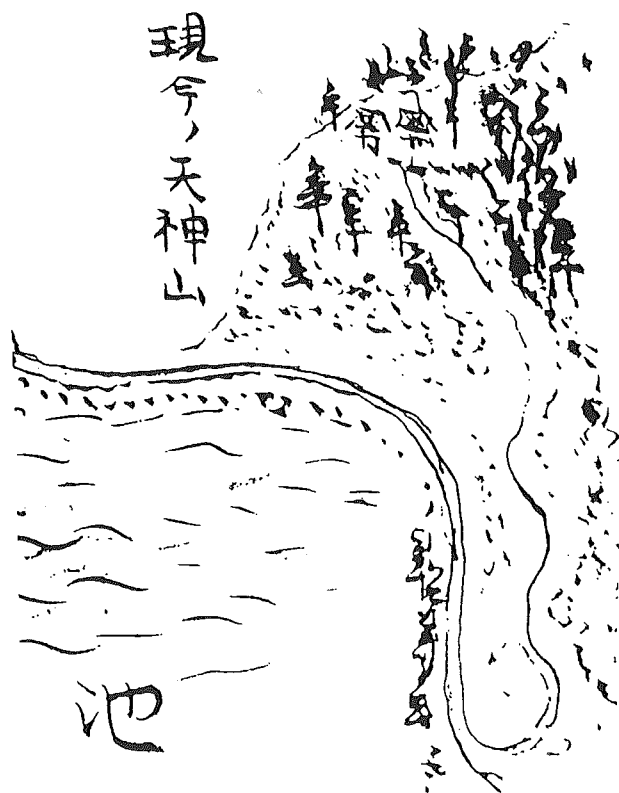
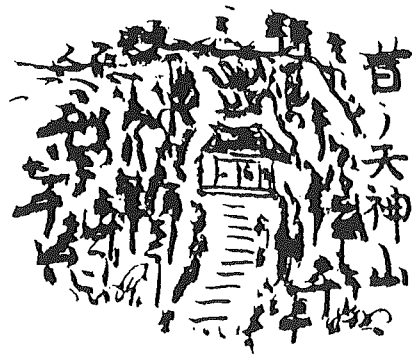
六部の谷は下石野字ふか谷（深谷）の奥にして明治十五年、十六年は山の中腹に大なる穴ありて、之に居る人の使いたる井戸あり清水を見たれども現今にては其の井かたちだけである。此所より東約一丁（一〇〇呎）の所に丸き塚あり。又、此所より西の峠に物見の石あり。又、此所より約七、八丁（七〇〇、八〇〇呎）西にあたりて五軒平と云う所あり。これは古城跡にて今まだ五軒の家跡あり。又、ここより辰巳（東南）の方に塚あり。又、表鬼門にひとつの塚ありたるが、明治二十年鉄道かかりて遂にこの塚を掘りたるに其のおしおり驚きたり。三人死す。又、裏鬼門と云う所にまたひとつの塚あり。又、戌亥（西北）の方に天神山あり。又、東の谷に太郎治とて此所に使われたる人の家跡あり。この五軒平の城跡に金の埋めたる所ありて、西国の大名この山を見て金光空に輝くと云う説あり。又、古き伝説に、戌亥（西北）方の香の木の下に金の茶釜が埋めてあると云うことを今日つたわりおれり。又、丑寅（北東）の方なる塚を鉄道のために切り割り

天狗の火燈

天狗の火燈はむかしより出で明治初年まで濟々見え、今の五軒平見え始めそれからより三切れの大松、天白稲荷之大杉より佛供の火燈松に行きて終ると云う。

天神山の由来

今の瓦屋の西にありて相当の森と宮堂ありたるが、これも權四郎森と同時なくなりたり。此うら峠は昔虫送り場所にて天神山とて其の名高かりき。



の氏子は山田川組である。八幡神社は故ネギヤ分校の東にありたるが大水の為に現今の所に越したり。熊野神社はもととは分校のある所にありたるも改正の後八幡宮に合社したり。八幡宮は今より六百六十八年の先に出来たり。熊野神社は今より七〇八年の先に紀伊の國之熊野より分社したるものであると云う。山の神社は山田川之北谷田の南側にありて、此の神主は、窪野鉄藏氏なり。明治八年の改正にて内神を神主の屋敷山に持ち来たりて祭り置けり。

火燈松の由来



此火燈松は昔遠州の七不思議の一つにして天狗火燈の松と稱す。此松は現今佛供田谷之峠西。大池より南へ約十二丁（一二〇〇〜三〇〇）の所にしてそのかたち傘のごとく実に景色よく、東は粟ヶ岳、北は秋葉山、西は三ヶ原、西南は掛塚方面まで一目に見え、直下は、なんかいと知れぬ深き谷あり。南は法多との界にして実に風景の好き松なれども明治二十三年頃の大風にて大なる枝吹き折られそれを元として遂に本木枯れたり。昔は此松に天狗来たりて火を燈したるゆえに之を稱して火燈の松と名付く。石野は昔古戦場にして此火燈松より東約十二丁（一二〇〇〜三〇〇）の所に御殿谷あり、釜ヶ谷あり。追いはてあり、又、此所より十五丁（一・五〜六）の西方に黒石河原と云う所あり。現今御料林（国有林）なるが約五畝歩（一五〇坪Ⅱ五〇〇平方）ばかりの間、石ことごとく黒く戦の時の篝火の跡と聞く。又、此所より約五丁（五〇〇）の西にあたりて赤砂利峠と云う所あり。此所は砂利ことごとく血にそまりて赤し。之戦の時血にそまりたと云う。之は寶野山の界である。

石野村の由来

石野村は今よりおよそ七〇八年前（鎌倉時代）に出来たる村にて、神社三ヶ所、寺四ヶ寺ありたるも、明治八年（一八七五年）の改正にて神社佛閣は一村に一社一ヶ寺よりほかに建て置くことできぬと云う事にて正覺寺、慈徳庵、菩提寺の三ヶ寺つぶして明香寺の一ヶ寺となつた。神社は、熊野權現神社、八幡宮、山之神神社之三社ありたるも明治八年之改正にて八幡宮之一社氏神として祭り置けり。熊野神社は今八幡宮に合社したり。其時之神主はネギヤの窪野佐工門之次郎藤原時房すなわち文工門。昔、石野の姓をなりたる時あるも中ば中絶して窪野の姓となる。今の窪野武平之なり。窪野家は今より七〇八年前にできたる家なり。石野村は元横須賀城主西尾隠岐之守の領分にて山名之庄石野村と云いたり。石野村は東西に長く南は法多、寶野、神長を界として北は川を界として其かたちなまずの如し。昔は川と村との界に高き堤防無く只川を界として居たり。其後おくわ年に大洪水ありて人家八軒ながされたるに幸いにして人命たすかりて家屋及び家具は皆ながされたり。其時之庄屋兼岡富三郎と云うて現今之兼岡作太郎之なり。此時荒れ跡をしらべるに、松井作平、山崎與平、杉山長四郎、山崎栄吉、沼野富八、沼野仙吉、窪野義八、窪野寅藏の八軒なり。其時、庄屋の命令にて荒れ跡を田畑となしたるに、其の荒れ跡より錢澤山掘出し其数かぞえきれず。二枚のムシロに二寸（約六錢）厚みありたり。其錢を以つて水防堤防をつくりたり。其堤防の長さ、東はもと慈徳庵、現今長嶋の北裏より西は天神山までの長き堤防を高さ四尺（一・二畧）中六尺（一・八畧）の堤を築く。其の人工大なれどもまだ其の錢使い切れず、其時錢のつみほろぼしとて伊勢神樂三日三夜舞いたるも、まだまだ錢使い切れず其時庄屋曰く之ではまだ錢のつみほろぼし出来ぬとて石橋をつくれり。此石は花崗石にて三河之國より買い福田港へつけ之を石野中の人々福田港より八点、十点にてかつぎ来たり。まだ此時は車なぞ無く只人の力のみなり。之を今の國開園の元屋敷の門先の用水堀にかけり。其後明治二十年十月八日鉄道かかり、道をかえ其履歴ある石橋をつぶし様々となりたり。其後明治二十二年大池の土井を造りなおして其建碑の台となりてゐるが誠に惜しいことである。村社八幡宮は上組六十軒之氏子。熊野神社はネギヤ組、下組の二組の氏子。山之神社

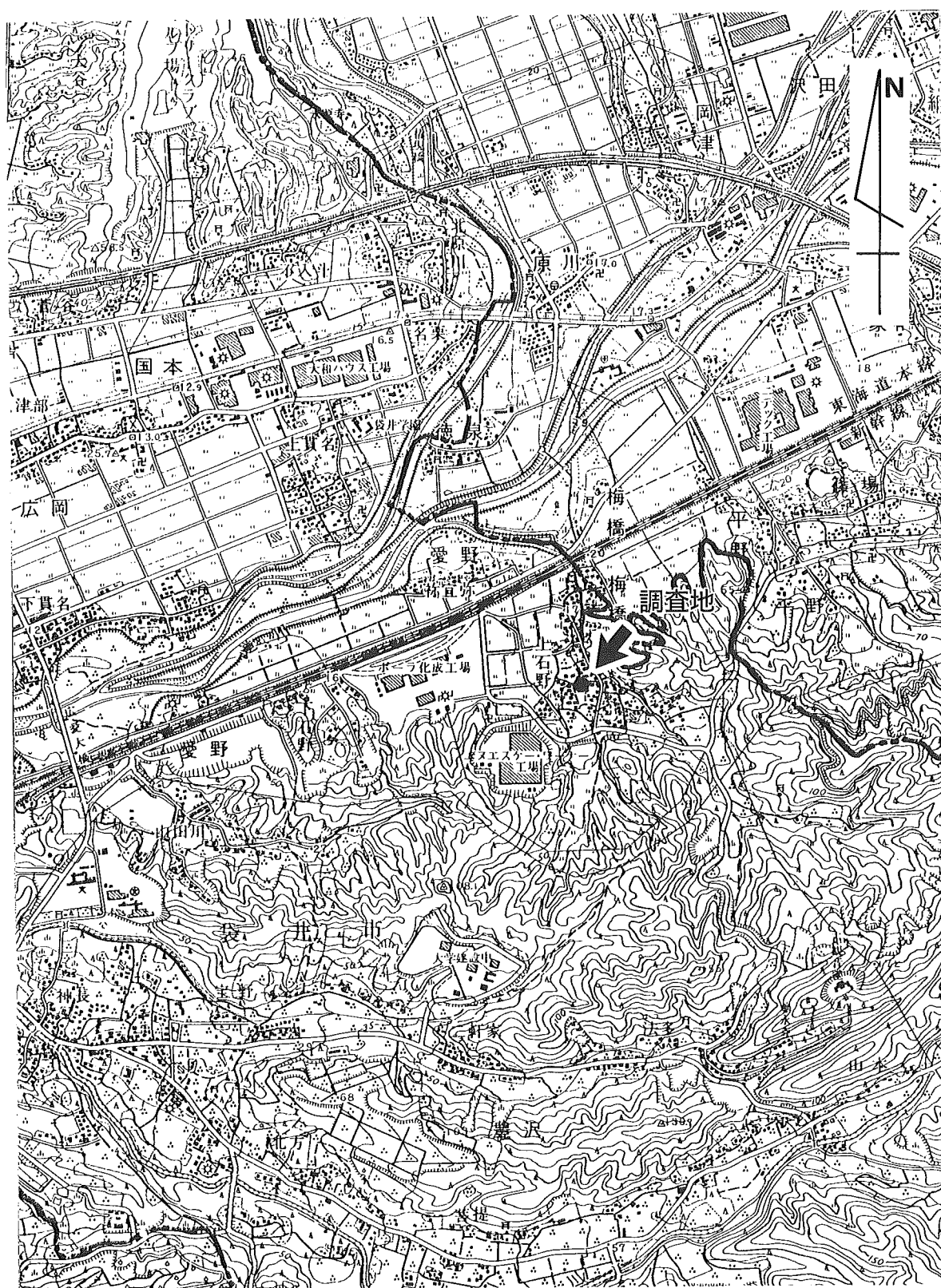
石野之栞

—右之所ヲ御見タキ御方ニハ何時デモ御案内致シマス—

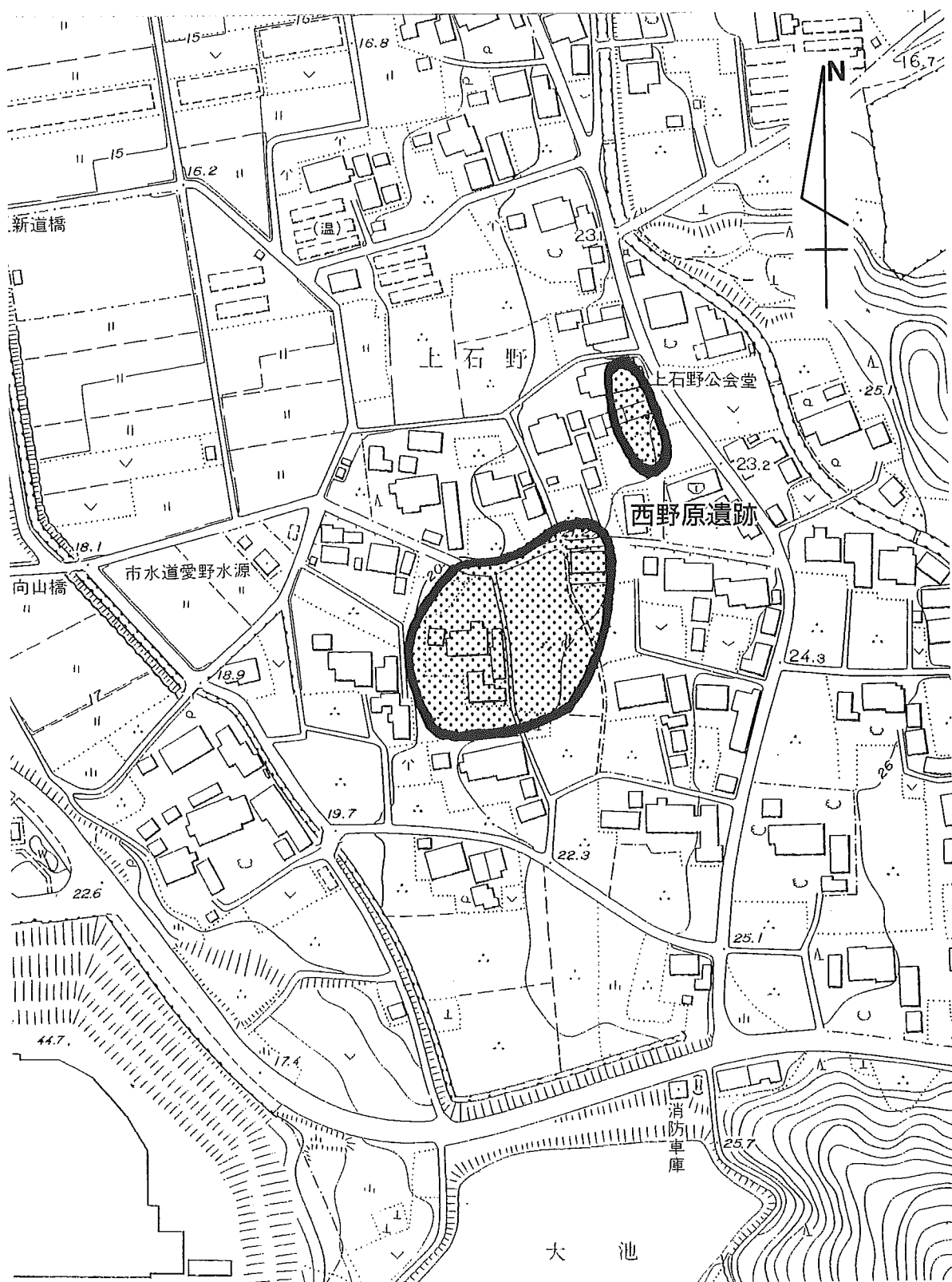
鈴木松太郎

(昭和八年三月四日之ヲ書)

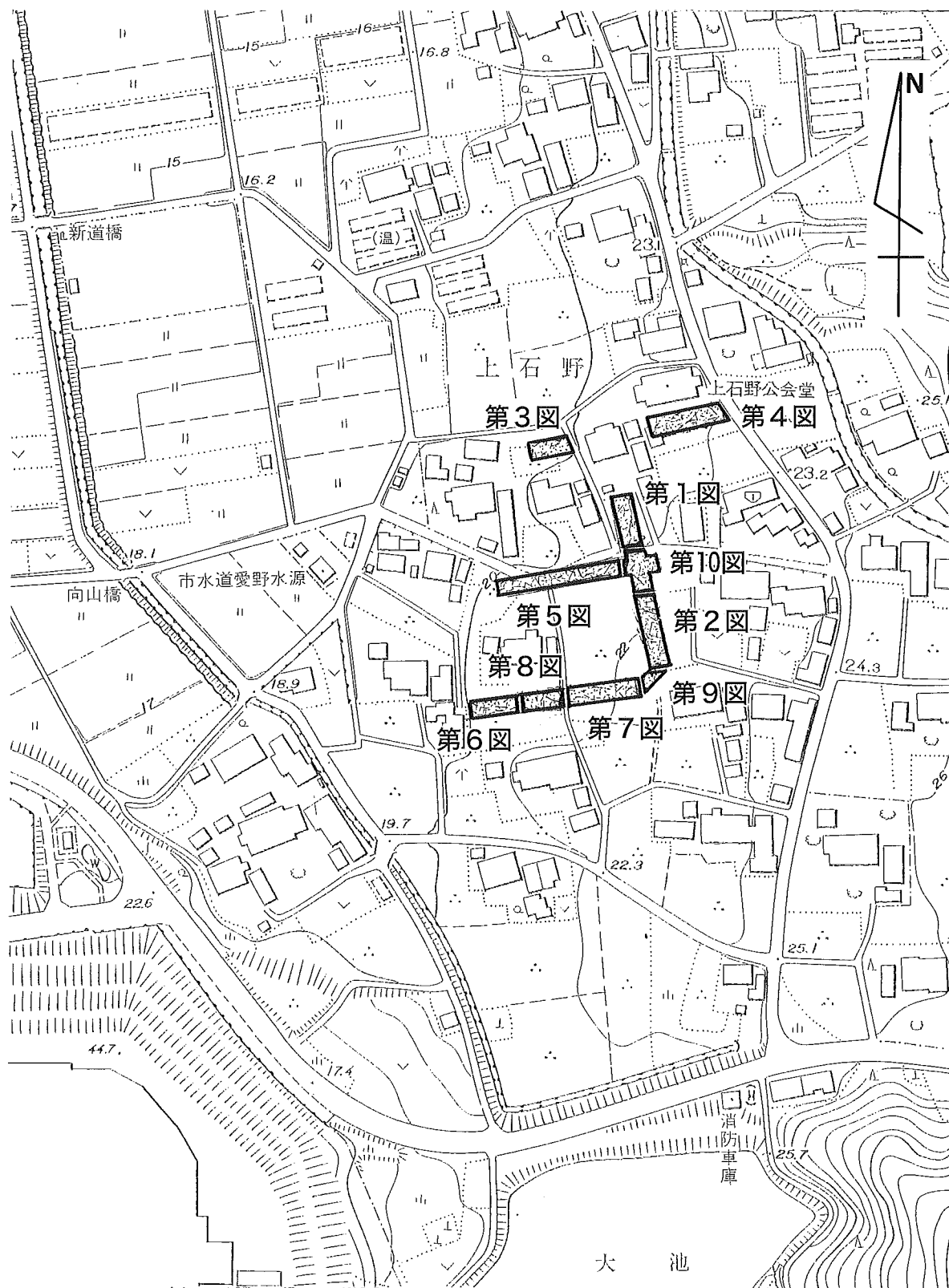
插图



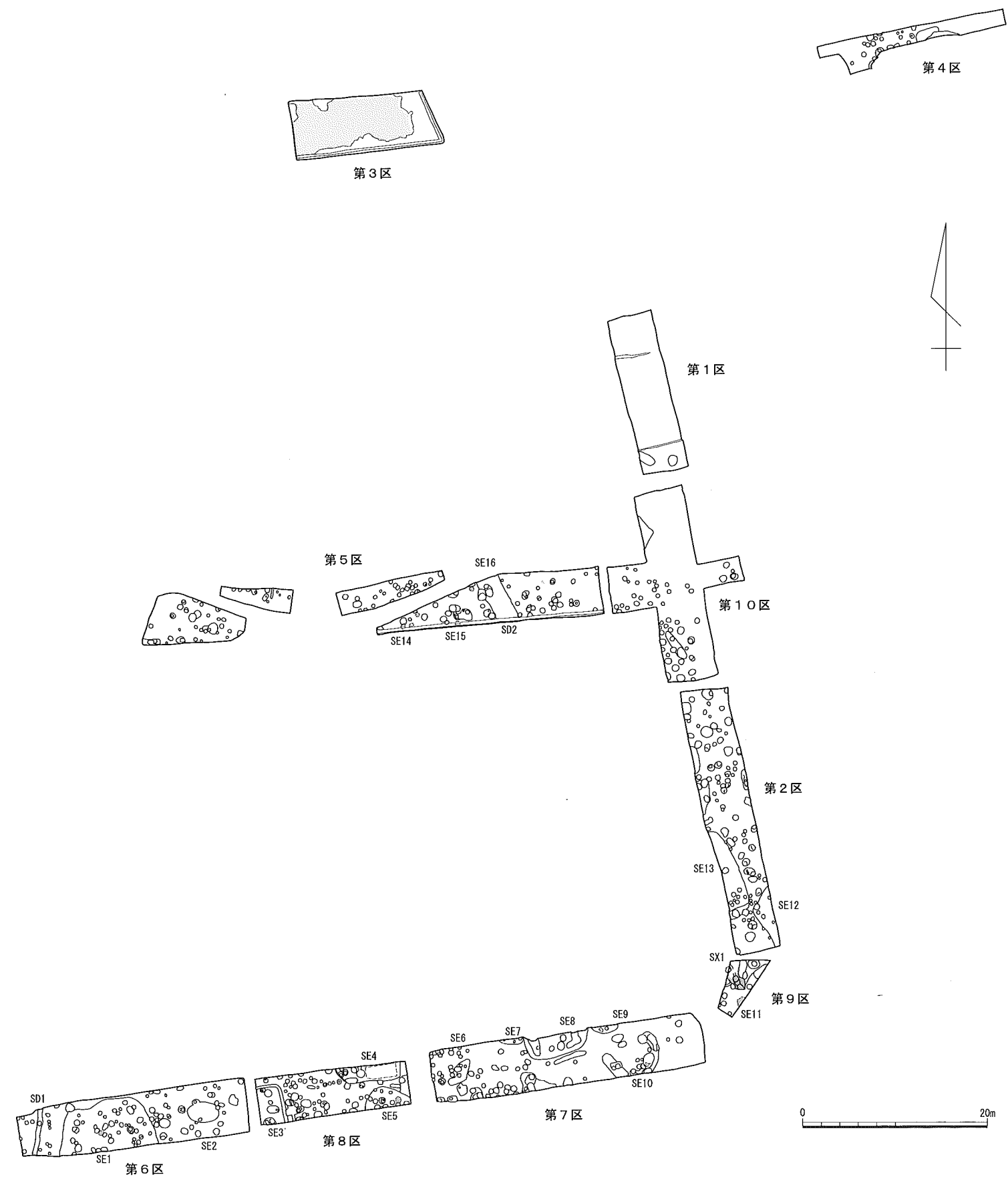
第1図 西野原遺跡位置図 (1/50,000)



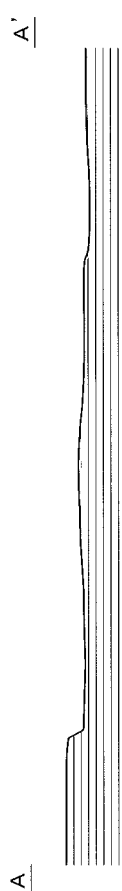
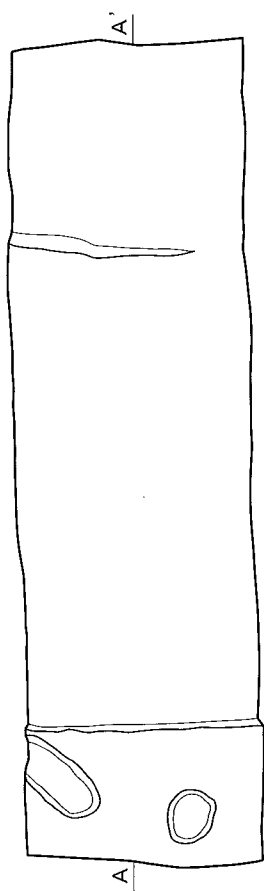
第2図 西野原遺跡の範囲 (1/2,500)



第3図 西野原遺跡発掘調査地点 (1/2,500)

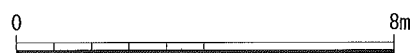


第4図 西野原遺跡調査区全体図

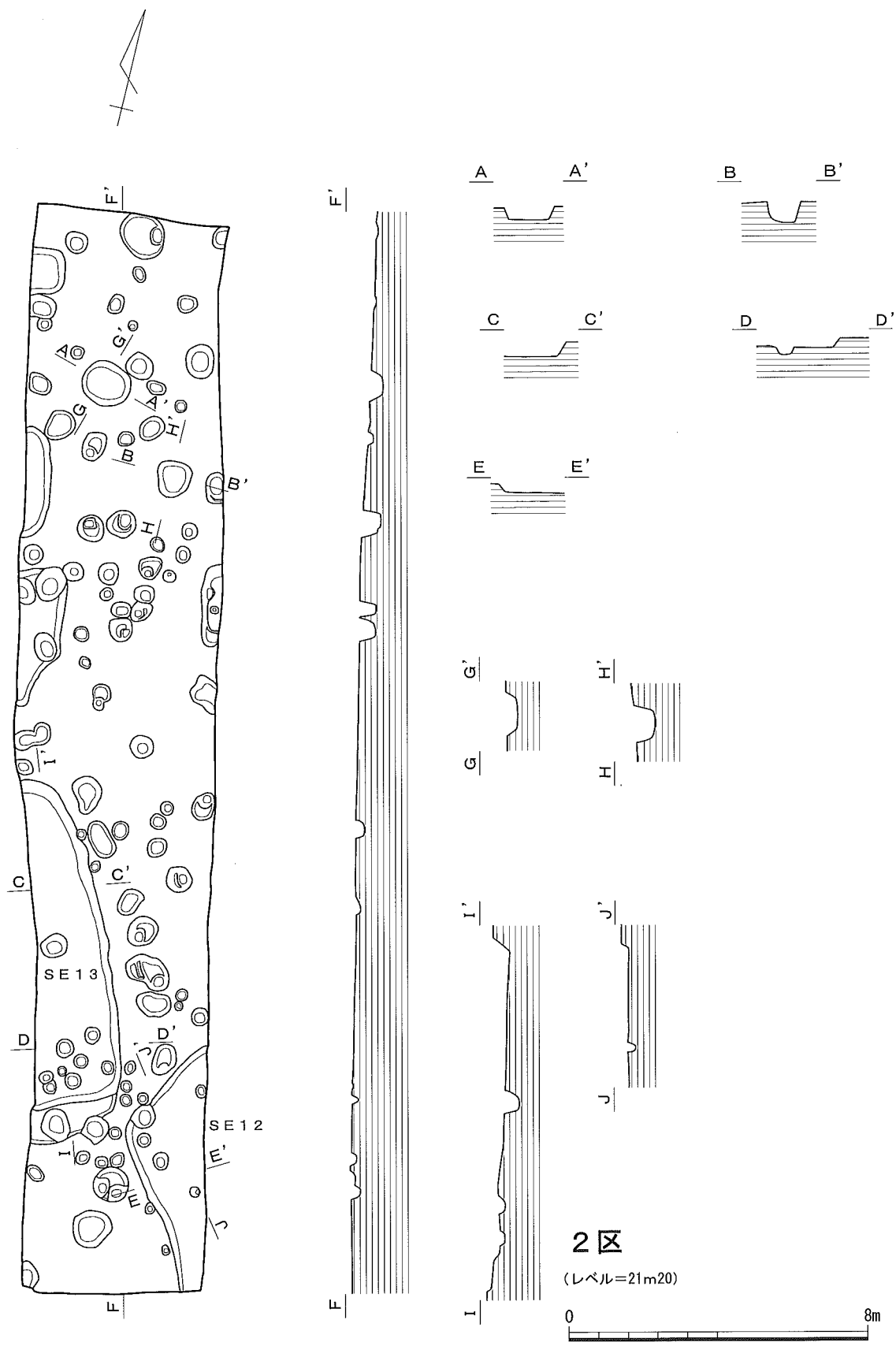


1 区

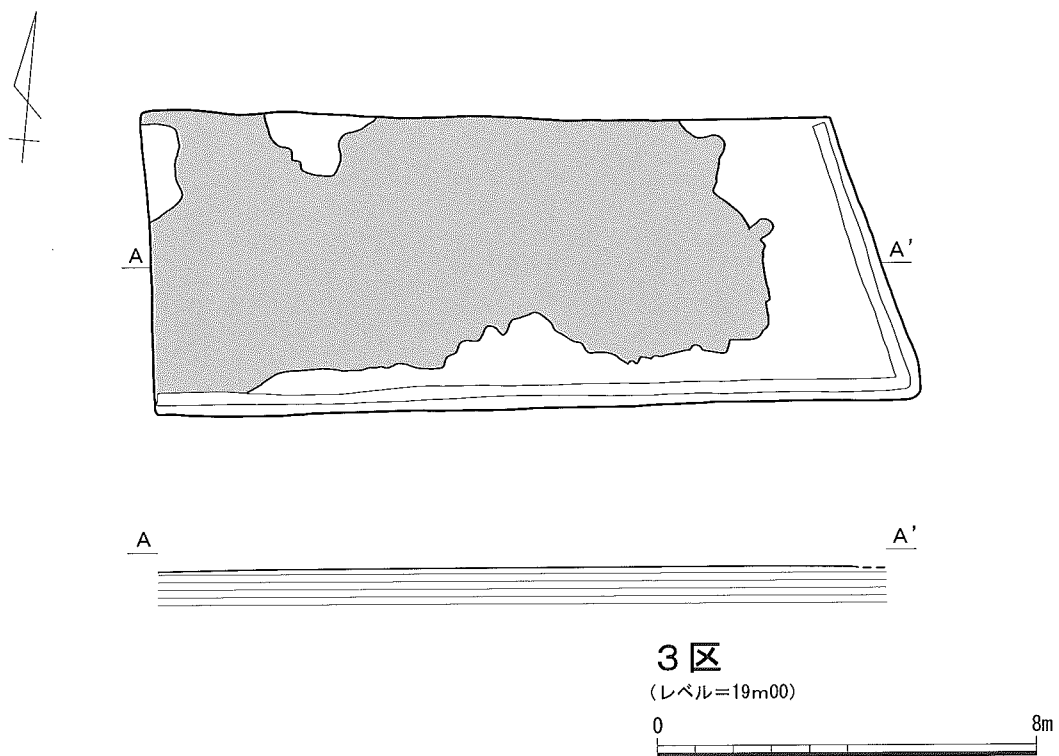
(レベル=20m00)



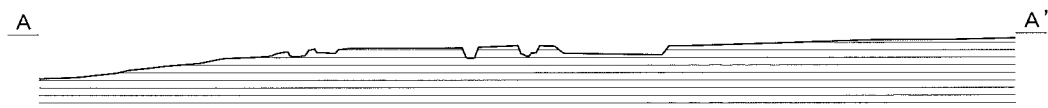
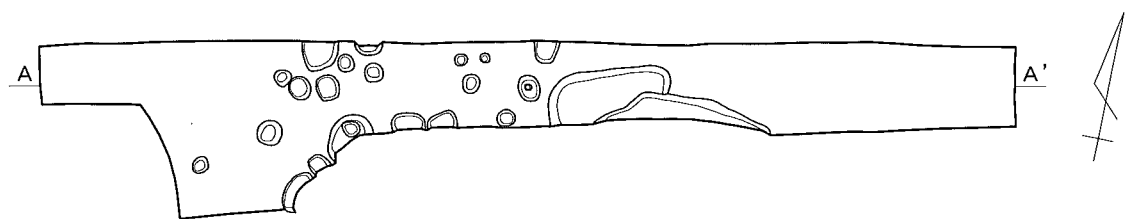
第5図 第1区 実測図



第6図 第2区 実測図



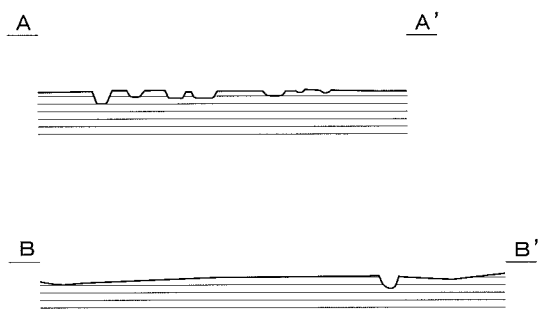
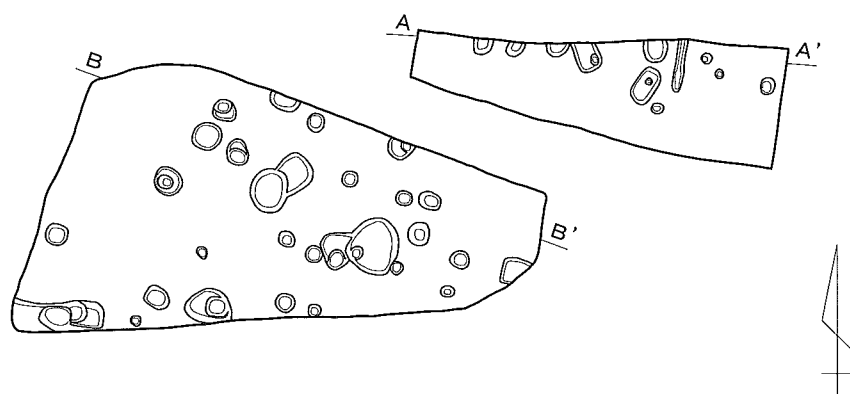
第7図 第3区 実測図



4 区

(レベル=20m60)



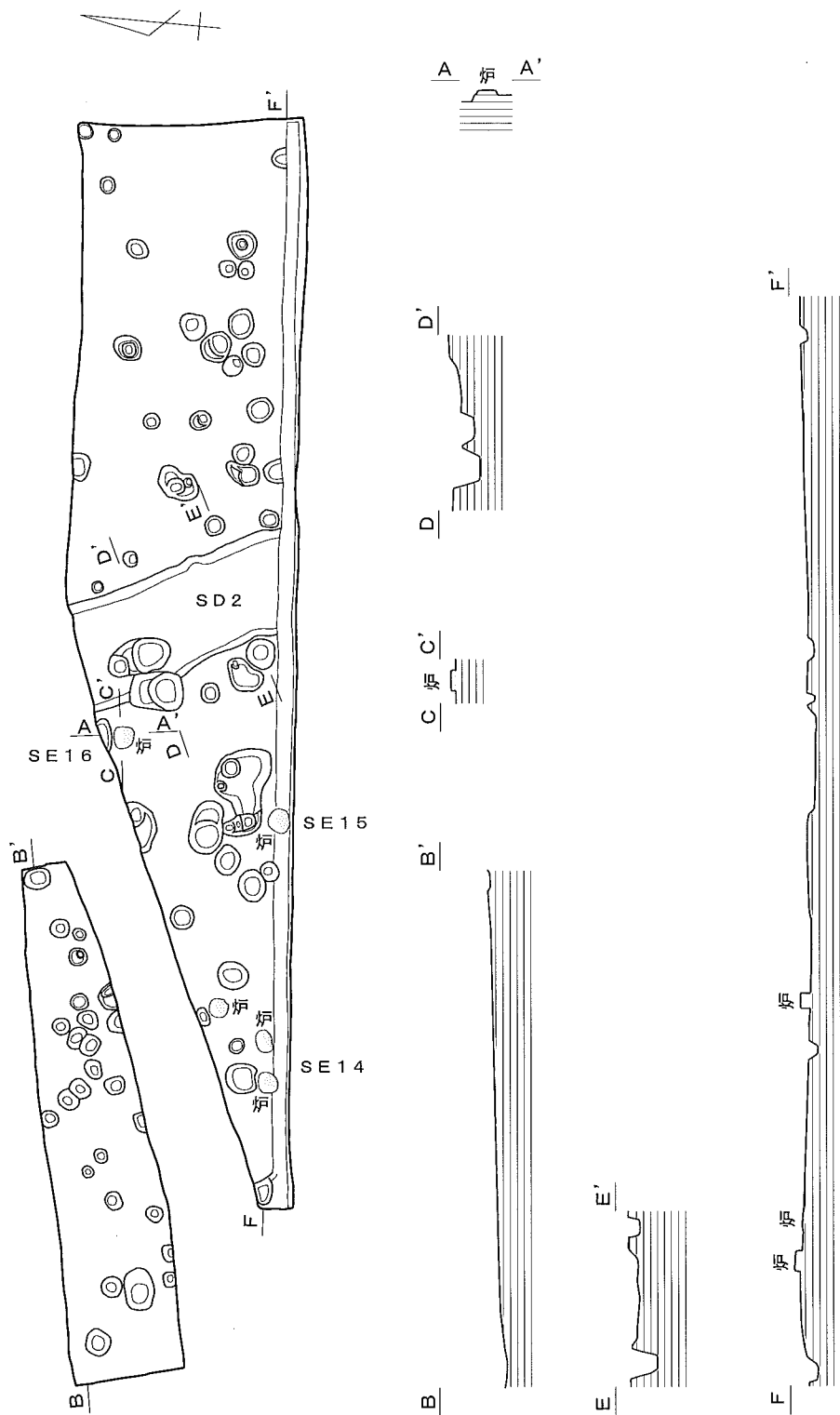


5区

(レベル=19m40)



第9図 第5区 実測図・その1

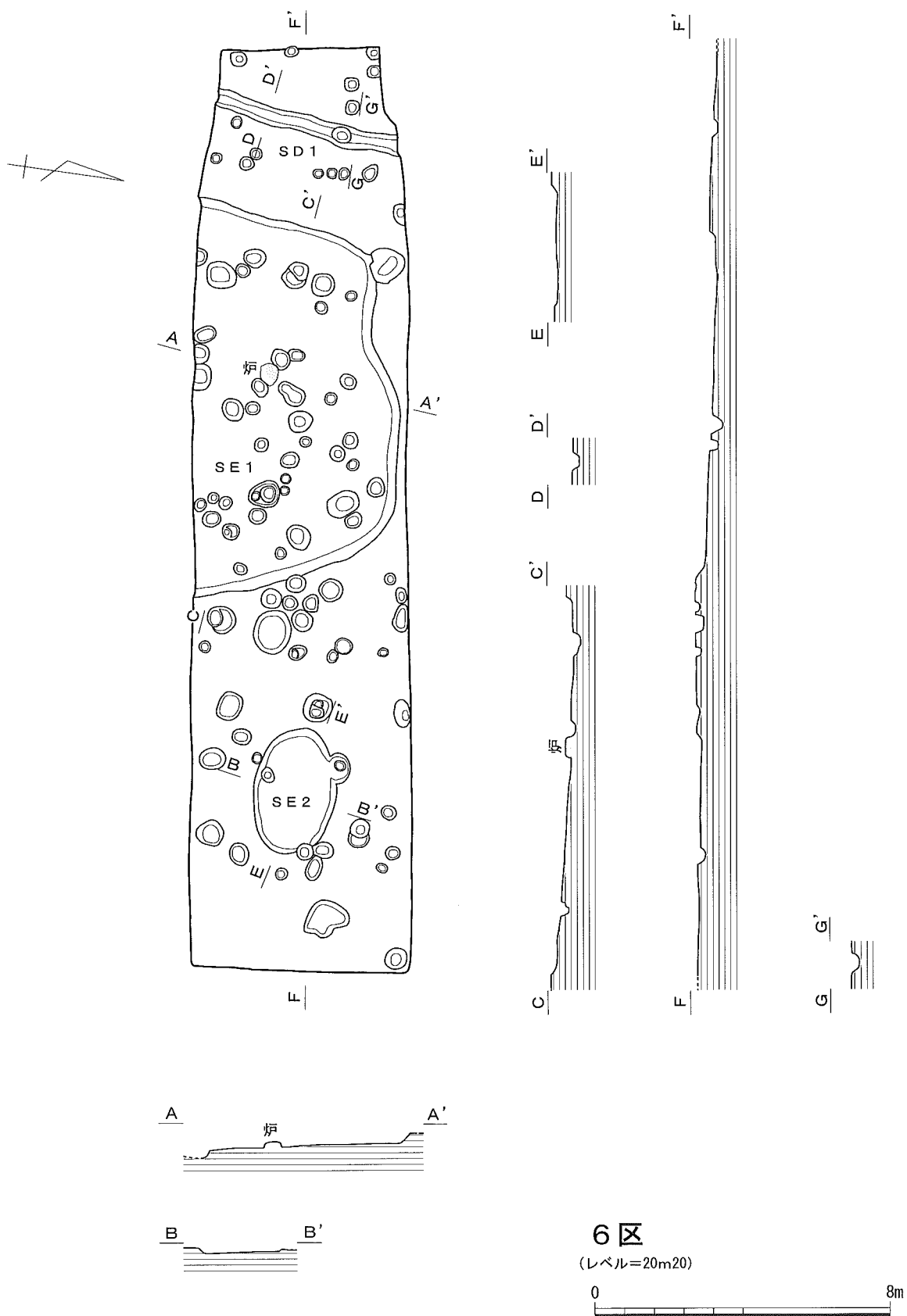


5区

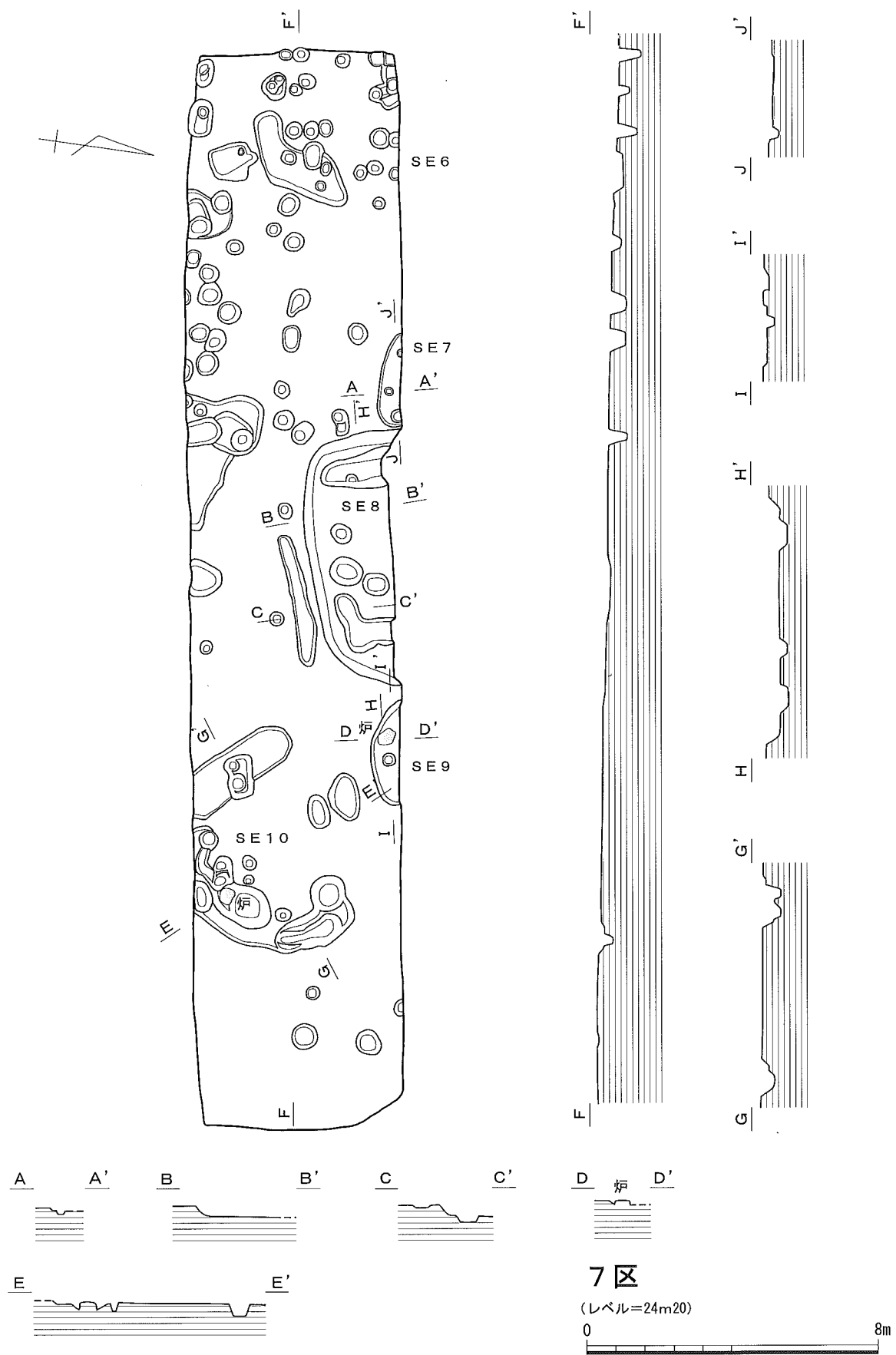
(レベル=20m00)



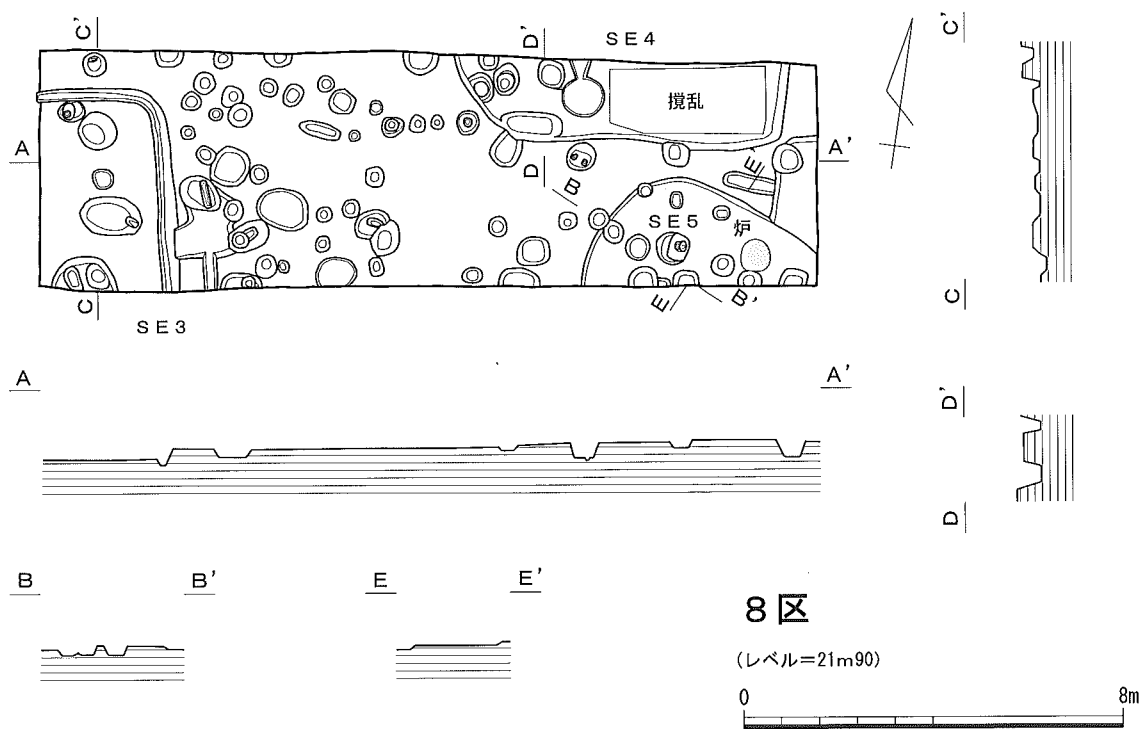
第10図 第5区 実測図・その2



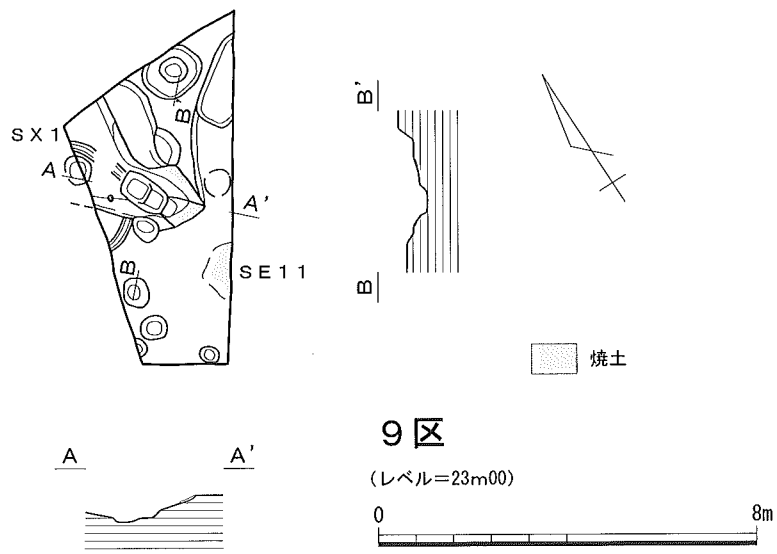
第11図 第6区 実測図



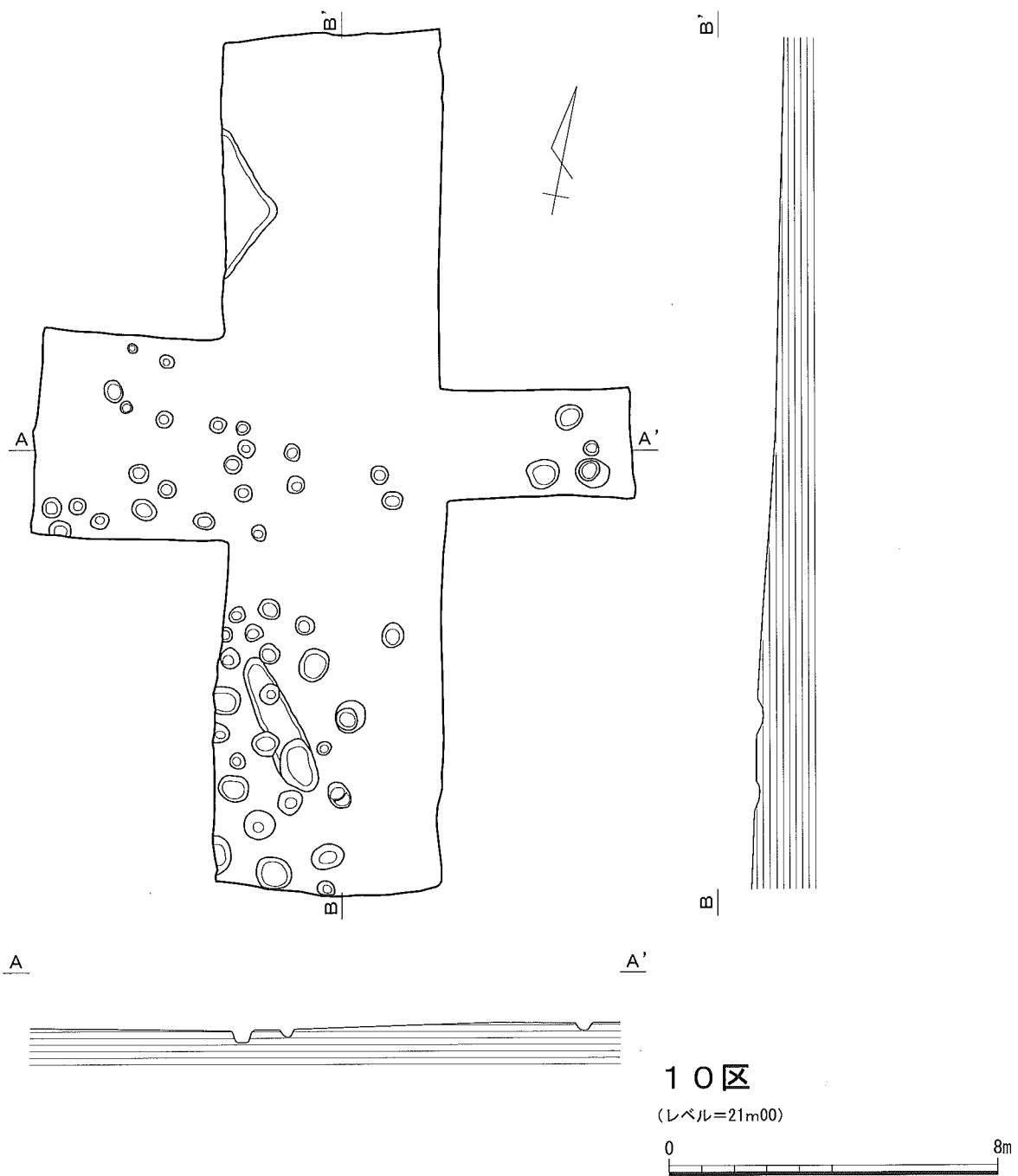
第12図 第7区 実測図



第13図 第8区 実測図



第14図 第9区 実測図



第15図 第10区 実測図

写真図版



(1) 第8区 調査前 (南東より)



(2) 第8区 重機による表土除去作業



(1) 第8区 発掘調査中



(2) 第8区 発掘作業中



(1) 第8区 完了写真 (東より)



(2) 第8区 完了写真 (西より)



(1) 第8区 SE5完了写真 (北より)



(2) 第8区 SE5炉跡 (西より)



(1) 第8区 発掘作業中



(2) 第8区 SE3完了写真(北より)



(1) 第9区 調査前 (南西より)



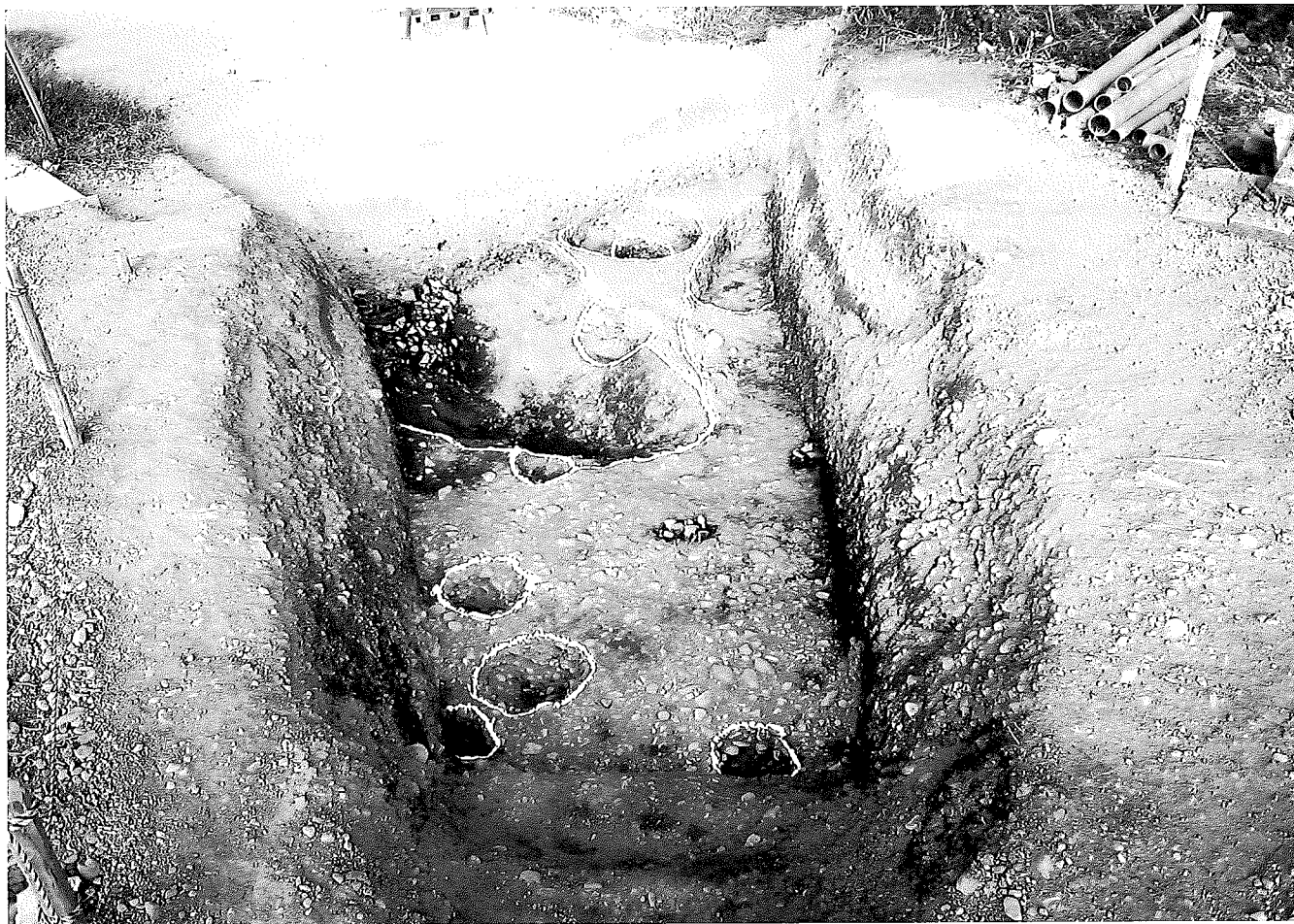
(2) 第9区 発掘作業中 (南より)



(1) 第9区 遺構発掘中(南より)



(2) 第9区 出土土器の状況



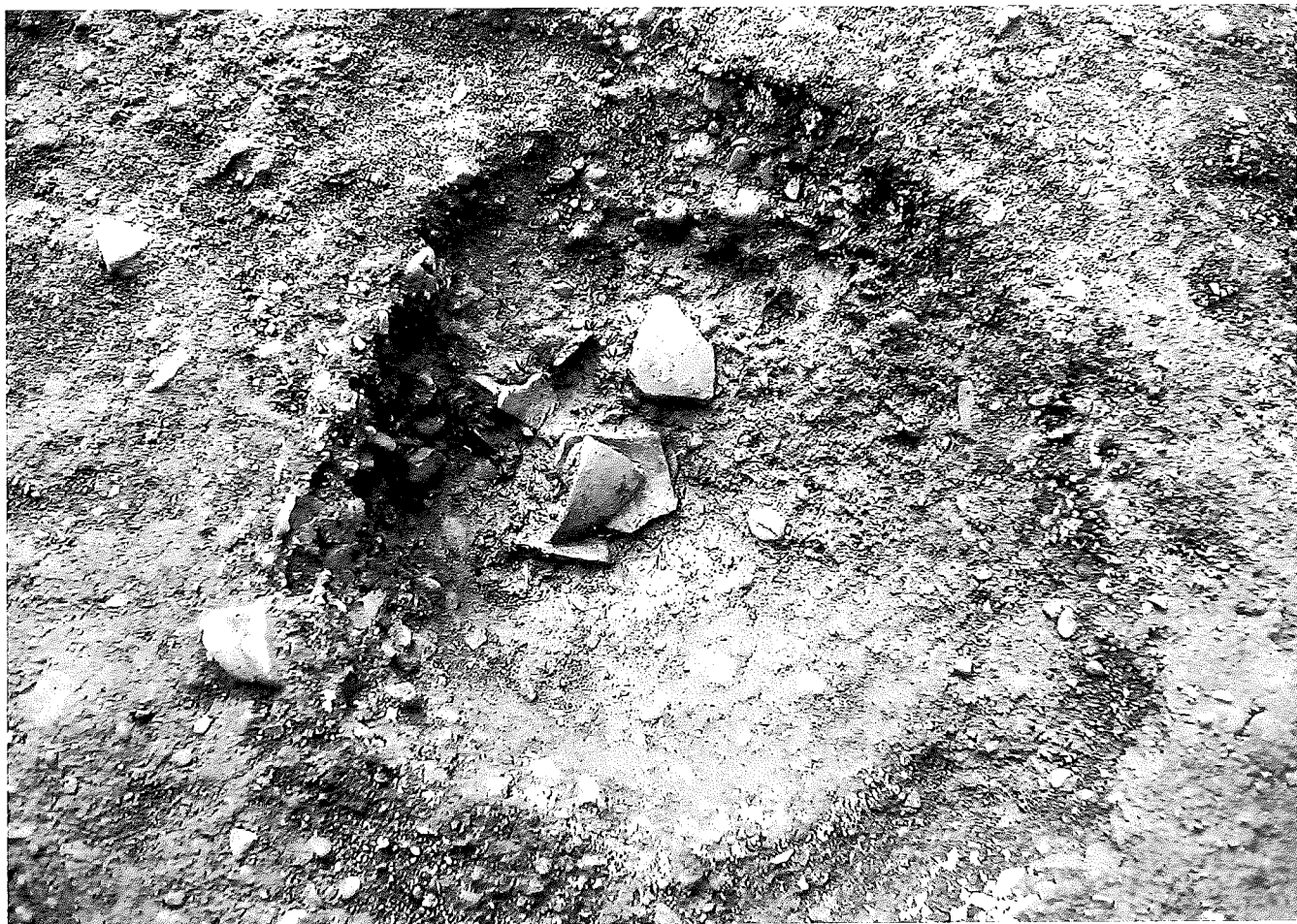
(1) 第9区 完了写真 (南より)



(2) 第9区 遺物出土状況



(1) 第9区 土錘出土状況



(2) 第9区 土壙より出土した土器



(1) 第10区 重機による表土の除去



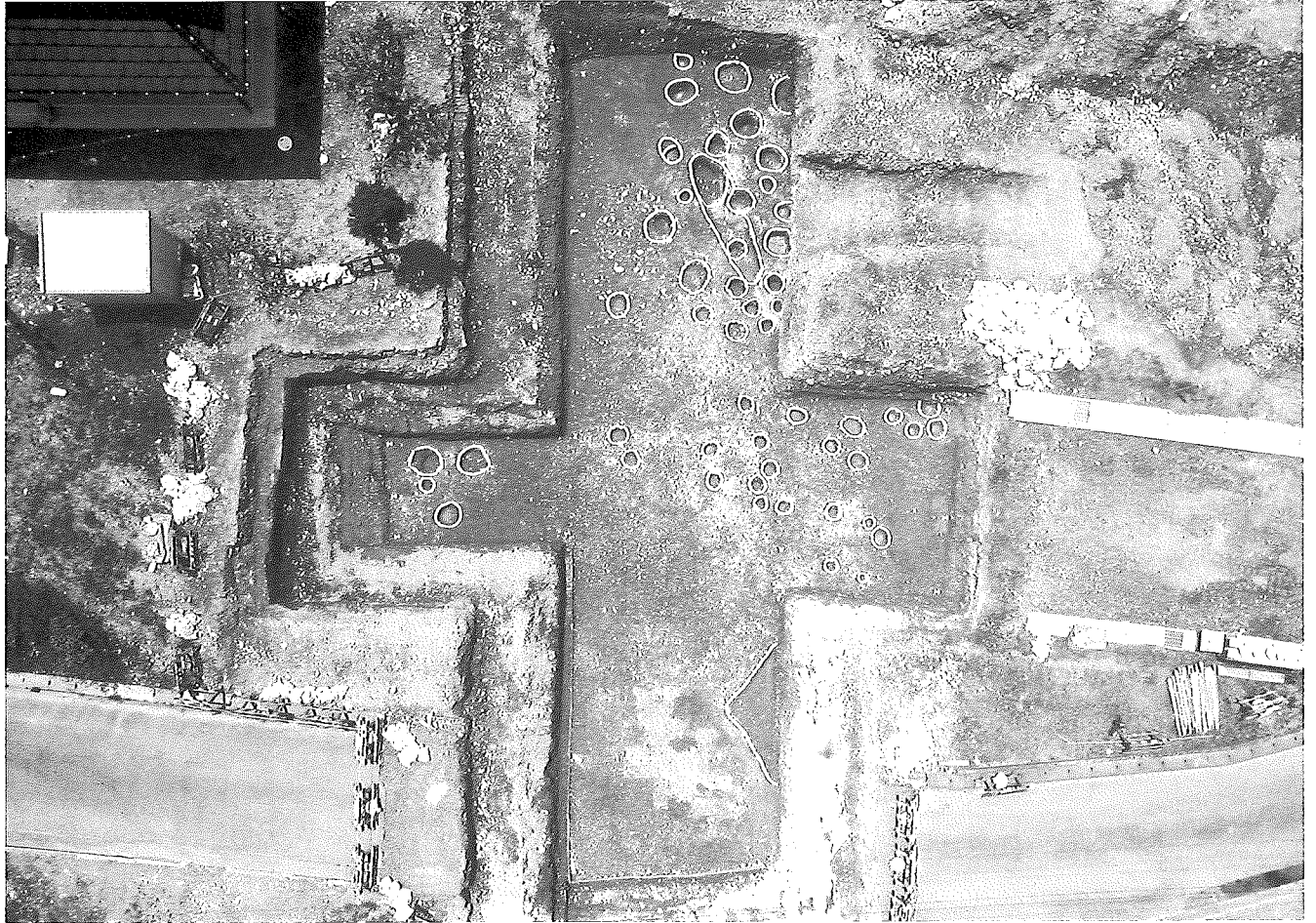
(2) 第10区 発掘作業中



(1) 第10区 発掘作業の状況



(2) 第10区 完了写真 (東より)



(1) 第10区 空中写真撮影



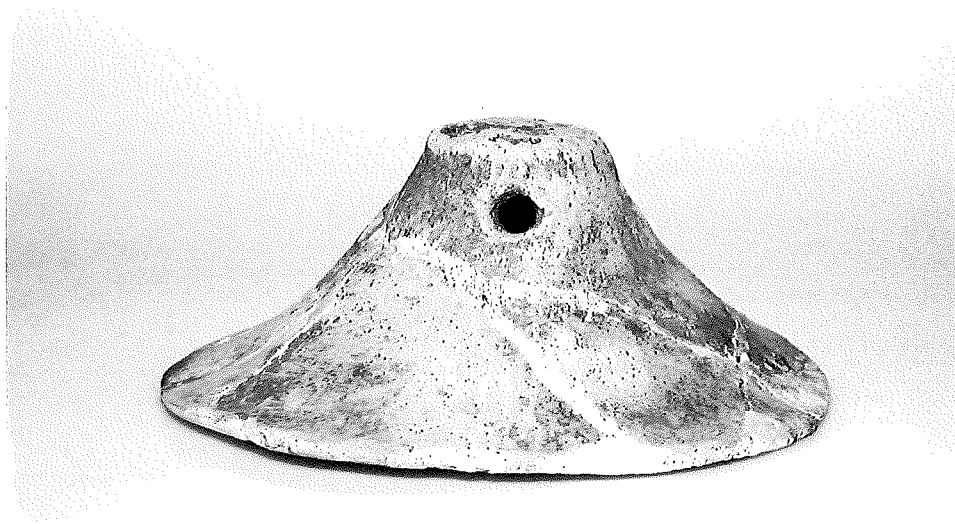
(2) 第10区 測量作業中



(1) S E 8 出土土器 (1次)



(2) S E 8 出土土器 (1次)



(3) S E 8 出土土器 (1次)



(1) SE 8 出土土器 (1次)



(2) 第5区 ピット内出土土器 (1次)



(3) 第4区 包含層出土土器 (1次)



(1) 第5区 出土土器 (1次)



(2) 第2区 出土土器 (1次)



(3) 第2区 出土土器 (1次)



(1) S E 5 出土土器 (2次)



(2) S E 3 出土土器 (2次)



(3) 上層より出土の内耳鍋破片 (2次)

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしのはら いせき							
書名	西野原遺跡Ⅱ・Ⅲ							
副書名	平成14・16年度 袋井市上石野土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書							
編集者名	永井 義博							
編集機関	袋井市教育委員会							
所在地	〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538-44-3141							
発行年月日	2005年2月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
にし の はら い せき 西野原遺跡	しずおかけんふくろい し 静岡県袋井市 あいの 愛野	22216	186	34° 44′ 47″	137° 58′ 08″	2001 2002 2004	1,170㎡	袋井市上 石野土地 区画整理 事業に伴 う道路築 造工事
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
西野原遺跡	集落跡 散布地	縄文時代 弥生時代 古墳時代	柱穴跡、土壙 住居跡、溝跡		石 器 片 弥生土器 土 師 器			
要 約	発掘調査では、古墳時代に小笠山が崩壊した土石流の跡が確認できた。古墳時代の集落は土石流の下層から検出されている。小笠山に残る「大崖」が元ではないかと考えられる。出土遺物は古式土師器が中心である。							

西野原遺跡Ⅱ・Ⅲ

平成14・16年度袋井市上石野土地
区画整理事業に伴う発掘調査報告書

2005年2月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
袋井市教育委員会

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210
松本印刷株式会社